

## 米ファウチ博士、トランプ前大統領のコロナ発言「かなり誤った情報があった」

5/13 読売新聞

【ワシントン＝富山優介】米国のコロナ対策の指揮を執ったアンソニー・ファウチ博士（82）が読売新聞のインタビューに応じた。米国のコロナ緊急対応の終了について「世界や米国の状況はかなり改善されたが、完全な終息ではない。新しい変異株による次の感染急増に備えるべきだ」と強調した。



【写真】米上院の小委員会で証言するファウチ博士  
トランプ氏の科学軽視 批判

インタビューは10日、オンラインで行われた。米国のコロナ感染死者数は110万人を超えており、ファウチ氏は「医療格差が大きく、診療を受けられない多くの社会的

弱者が亡くなった。米国は分断され、国一丸となった対応をできなかった」と問題点を指摘した。

米国でのコロナ対応について「マスク着用やワクチン接種を推奨する州もあれば、推奨しない州もあり、対応が割れていた。優れたワクチンを記録的な速さで開発できたのに、十分には生かせなかった」と述べた。

「当初は、他の呼吸器感染症と同じようなものだと考えていた。無症状の人からも感染するなど驚きの連続だった」と振り返り、「ウイルスの変異など必要な情報を米国内で即座に共有する仕組みが欠けていた」と反省した。

トランプ前大統領が、コロナへの有効性が証明されていない薬への期待を公に示すなど科学的根拠を軽視する言動を繰り返したことについて「かなりの誤った情報があった。国の最高権力者から発信され、悪影響は大きかった」と批判した。

SNSを通じて拡散したコロナに関する誤情報や偽情報については「命を失わせる危険性がある。SNSではなく報道機関が、データと科学的根拠に基づく正しい情報を発信することが大切だ」と訴えた。

日本の対応を巡っては、「公衆衛生当局の勧告を順守する国民が多く、他の先進国よりも少ない死者数に抑えられた。非常に高く評価している」と述べた。

ファウチ氏は米国立アレルギー感染症研究所長を1984年から務め、トランプ、バイデン両政権でコロナ対策の責任者として対応にあたり、昨年12月に首席医療顧問などの公職を退任した。